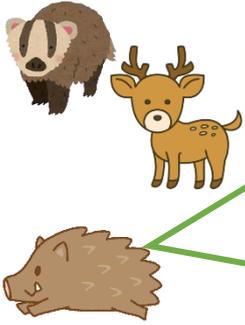


早いもので、年度末の月になりました。今年度は寒い期間が短く感じました。
温かくなると、活発になるヤツらがいますよね・・・。
という事で、今月はマダニから感染する

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）について再度確認しておきましょう！
実は2025年は佐賀県内で(人の)SFTS患者が過去最多を更新しているそうです！



感染経路

- SFTS ウィルスは犬猫以外に多くの種類の哺乳動物・鳥類に感染します。国内では鹿、猪、タヌキ、アライグマなどで抗体が検出されています。
- 人や犬・猫が SFTS ウィルスに感染すると重症化する傾向があります。
- 基本的な感染経路は SFTS ウィルスを持ったマダニによる刺咬です。感染した人や動物の血液や体液に接触する事で感染する可能性もあります。

症状

- 犬・猫の初期症状は急性発熱、活動性低下、食欲不振、嘔吐、下痢などです。猫では黄疸が見られます。
- ヒトでは高齢者が重症化しやすい傾向にあることが指摘されています。猫では人で見られるような年齢による偏りはなく、性差もないことから、野外に出る猫全般にリスクがあるといえます。

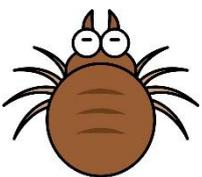


致死率

致死率は犬に関しては症例数が少ないため約40%前後と幅がありますが、猫は約60%と高く、死亡例の多くが発症から7日以内に死亡しています。

お家で気を付ける事

- 動物が発症して動物病院を受診するまでの間に、咬傷をうけていないか
- 同居動物がいる場合、周囲に感染マダニが潜んでいる可能性があることから、最初に発症した動物と同じ環境下で生活している同居動物も感染リスクが高いといえます。動物同士の直接的には接触がなくても健康状態には注意し、食欲不振や活動性の低下など異常があれば早めの受診をしましょう。



マダニ

まずはマダニの活発な時期が

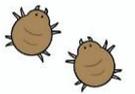
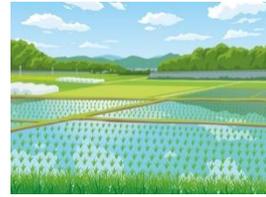
- **春～初夏**(4～7月)がピーク
- **秋**(9～10月)

ですが、温かい地域ではほぼ通年活動します。そして、種類によっては越冬するものや冬季でも活動するマダニもいます。
そして気温が15℃以上になると活動が活発になります。近年温暖化の影響により、マダニの活動期間は従来よりも長期化し、年間を通じて活発化する傾向にあります。



ここにいるよ！

- ・草むら、山林
 - ・農作業の多い地域、低木の多い斜面や林縁
 - ・河川敷や用水路周辺
 - ・公園の芝生や植え込み
 - ・キャンプ場
 - ・唐津周辺では田畑・里山などでも可能性があります。
- マダニは草や低木の先で待ち伏せして動物や人に付着します。



通年対策

- ・マダニ駆除剤の使用
- ・散歩後のマダニチェック!
特に「顔」「目の縁」「耳」「腹」「足の付け根・指の間」「背中」「わきの下」を重点的に確認！ブラッシングも吸血前のマダニには有効！
- ・草刈り、落ち葉の除去、野生動物の侵入防止

暖かくなると、庭の草むしりなどされる方が増えると思います。

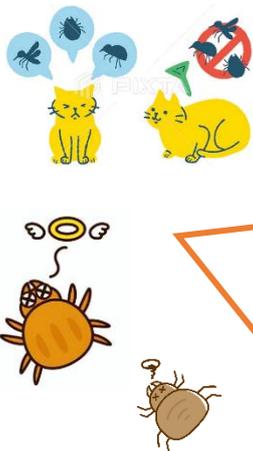
予防のポイント！！

- ・長袖・長ズボンを着用（ズボンの裾を靴下に入れる。）
- ・明るい色の服（ダニを見つけやすい）
- ・虫よけ剤（ディート・イカリジン配合）
- ・帰宅後すぐにシャワー&全身を鏡でチェック



マダニ駆除剤

- ・SFTS ウィルスはマダニが媒介します。
マダニの生活環の中で吸血後産卵が行われると、その周辺環境にウィルスを保有する幼ダニが多数出現する可能性があります。人も犬猫も接触するリスクを最大限に減らすために、マダニの駆除は積極的に行うべきです。
- ・犬や猫の SFTS 症例の中には、マダニ駆除剤を投与されていたにもかかわらず、SFTS を発症した例が認められています。野外の環境にはマダニ刺咬以外にも感染マダニの経口摂取、あるいは感染動物(体液)との接触など、複数の感染経路が存在することが考えられます。
- ・現状ではマダニ駆除剤だけで SFTS を予防する事は難しいといえます。



人での致死率は約 20~30% と言われています。
高齢者・基礎疾患がある人で致死率が高くなる傾向があります。
現在、特効薬もありません。
本当に怖い感染症ですので、人も動物も安全に過ごすために、しっかり予防しましょう!

